



INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION SANKEI





- 高円宮妃殿下から「第35回記念産経国際書展」高円宮賞を受ける坂本香心理事長代行(7月31日、
- 開会式:左から伊藤欣石副会長、風岡五城理事長、飯塚浩彦社長、田中鳳柳最高顧問、齋藤香坡 最高顧問(7月27日、東京都美術館)



産経新聞社 事業本部長 伊藤富博

注目を浴びる企画の継続を

産経国際書会会員の皆様方の日頃のご支援 にあらためて感謝申し上げます。

第35回記念産経国際書展の東京都美術館での展覧会、そして明治記念館での贈賞式・祝賀会を無事に終えることが出来ました。また、記念企画の「『書』で結ぶ世界と日本~『友』と『愛』」は、米国、英国など16カ国の在日大使らにご揮毫いただきました。会場に展示された作品を見た皆様から、まさに"国際"にふさわしい企画とご好評をいただきました。

さて、私は年頭の会報の挨拶で、2点ほど 皆様に誓わせていただきました。

出品点数を6500点に限りなく近づけること、そしてもう一つは、今秋の「日本台湾交流 書道展 | を成功させることです。

最初の出品点数は、皆様方の頑張りで6,351 点となり、昨年を大幅に上回ることが出来ま した。長年の減少傾向にやっと歯止めをかけ ることが出来たと思っています。

二つ目の「日本台湾交流書道展」は、日本側出品者が232人、台湾訪問団も130人近くと、大盛況となるかと思います。台湾からは張炳煌先生ら30人の出品があり、日台ジュニアの交流も行われます。

今回の記念企画は、書会の底力を十分に示す内容となりました。来年もこの良い流れを引き継ぐとともに、国内外から注目を浴びるような企画を続けていきたいと思います。

皆様、引き続きよろしくお願い申し上げます。



度経国際書会 理事長 風岡五城

変化と創造を目指して

今年4月の役員改選によって伊藤欣石先生が副会長に、また副理事長には髙木撫松、松井 玲月の両先生が新たに加わり、さらに理事長 代行には坂本香心先生が加わって渡邉麗先生 とともに二人体制となりました。

このような執行部の強化は、35回記念展の 成功と出品数増への取り組みに向けて万全の 体制を整えるためのものです。

本展が無事終了した現時点で振り返ってみると、入場者数は5,157人、前年比約600人の増。贈賞式・祝賀会への参加人数も大きく前年を上回っています。また出品点数は、U23と臨書の部門を中心に前年比約400点の増となりました。両部門とも今後いっそう力を入れていかなければならないところでの増は嬉しいことです。記念展ということでたまたま増えただけに終わらないよう継続的な取り組みが大事です。

10月には日本台湾交流書道展が開催されます。台湾との交流は実に18年ぶりです。書を通じた国際交流も書会の重要な使命です。是非とも成功させなければなりません。

産経国際書会はこれからも会員の皆様とともに、常に変化と創造を目指していく団体でありたいと願っています。一層のご理解・ご支援をいただきますようお願いいたします。



熱心に作品をご覧になる高円宮妃殿下

第35回記念産経国際書展は、東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で7月27日から8月3日まで開かれた。総出品数は昨年より430点多い6,351点だった。今年から、複数出品の出品料を5000円から3000円としたことから、複数出品が増えた。部門では、臨書が大幅に増え、また、U23部門にも300点近い応募があり、年々増加の傾向にある。

今年の高円宮賞は坂本香心理事長代行、内閣総理大臣賞は岩間清泉副理事長が受賞した。今年は35回記念展ということで、評議員以下の審査会員、無鑑査会員、会友の3つのカテゴリーの各々の最高賞として「第35回記念賞」を設けた。また、5月に逝去した小林静洲常任顧問には「第35回特別記念賞」が贈られた。そして、中国大使館からは、今年が日中友好平和条約締結40周年の記念の年に当たることから、岩浅写心副理事長に記念賞が贈られた。さらに、会員を対象に本展に30回以上出品した



贈賞式で挨拶をする飯塚社長

方々、それに準ずる貢献をされてきた方々、社中を対象に「第35回記念功労賞」が贈られ、祝賀会で表彰を行った。

特別展としては、アメリカやフランスなど16カ国の駐日大使が日本語の「友」または「愛」にあたる自国の言葉を書作にした「書で結ぶ世界と日本」展を併催、"国際"の名を持つ書会に相応しい企画と好評を博し、来年度以降も継続する方向で検討が始まっている。そして、今年の特別色紙展は高円宮妃殿下から「変」と「創」の二文字の御題を頂戴し、80歳以上の会員による色紙展を開催した。色とりどりの色紙63点が飾られた。そして、昨年に引き続き本展のPRとして著名人の書も展示した。タレントでヨガマスターの片岡鶴太郎さん、俳優の藤田三保子さん、松村雄基さん、タレントの岡部まりさんの作品が特別出品された。(事務局)

【来年度】第36回展

会期 2019年7月27日(土)から8月3日(土)

前期: 7 月27日(土) \sim 7 月29日(月) 後期: 7 月31日(水) \sim 8 月 3 日(土)

30日(火)が展示替え

会場 東京都美術館

ロビー階と1階の第1~第4展示室

贈賞式·祝賀会 7月31日(水)午後4時~、 明治記念館

第 35 回記念 産経国際書展

第35回記念産経国際書展実行委員長として



実行委員長 風岡五城

第35回記念産経国際書展審査会は、審査本部長の村田白葉先生の下、4Cの理念を掲げて「良いものは良いとする」公正な審査が行われたことは言うまでもあ

りません。審査部、搬出入部の連携もよく例年 以上にスムーズに事が運びました。

本展関係では陳列部、図録部、東京部会がそれぞれの役割を十分に発揮していただきました。会場は第一室の間仕切りをやめて広くしたことでゆったりと鑑賞でき、ギャラリートーク、揮毫会の折にも空間的な余裕ができま

した。また、第35回記念事業の「書で結ぶ世界と日本」の企画は大成功であったと自負しています。この企画を実行したのは運営委員会の主に総務部、企画部の方たちでした。来年も行うなら実行委員会の中に国際交流部(仮称)の新設が必要かも知れません。さらに37回展は東京オリンピック開催と時期が重なります。その時にはどんな交流の仕方があるか、交流の夢はさらに広がります。

今後の予定としては9月に東北展と瀬戸内展、11月には中部展と関西展、その間隙をぬって10月には日本台湾交流書道展が開催されます。日本からは232点の出品、訪問団127人、台湾との交流は18年ぶりです。交流の広がりと深化を大いに期待しています。



壁を取り払い広々と展示



色紙展「変」と「創」



頑張れ! U23



審査本部 第35回記念展の審査を終えて

審查本部長 村田白葉

第35回記念展の審査会は、5月22日から25日まで東京都足立区のシアター1010ギャラリーで開催されました。各部の審査員は、漢字15名、かな5名、現代書13名、篆刻・刻字3名、臨書5名、U234名の総勢45名の先生方にご出席頂き、4Cに基づき、35回の記念展にふさわしい作品の選出をお願いし、審査して頂きました。

そして、最終審査の特別選考委員会には、中国書人 家連盟の晋鷗氏と二科会常務理事で彫刻家の吉野毅 氏の外部審査員をお迎えし、14名の選考委員により、厳正に審査され各賞が決定されました。展覧会会場には、素晴らしい作品が皆様の前に展示されたはずです。

各審査員の先生方には大変お疲れ様でした。また、連日、スムーズな進行と、作品整理を担当して頂いた 審査部員の方々、ご協力頂いた搬出入部の方々、業者 の皆様をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げ ます。

搬出入部 分類作業の簡素化

搬出入部長 磯邊哲舟

5月21日のシアター1010(北千住マルイ)の11階は朝早くから賑わっている。第35回記念展の審査会の始まりである。

当日の9時30分、ギャラリーCの会場にて作品搬入の作業が開始された。隣のギャラリーA,Bは審査会場なので緊張感が迫ってくる。

今回から審査部への作品引き渡しが1時間早まり、午後1時30分(前回までは午後2時30分)となりました。部員12名で大丈夫か?そうです、今回から出

品票の簡素化により仕訳作業が縮小されたのです。 約120種類の分類は半分となり、部員及びアルバイト スタッフの15名のチームワークの良さで無事審査部 への引き渡しが完了いたしました。

複雑な搬出入事務の今後は審査事務をサポートする役割となりました。搬出の日、特別賞の選考も終了し、表具店も集合し、搬出は午後3時無事終了。これもすべて書会事務局と部員の総力の結果と感謝している次第であります。

図録部 作品の天地左右は「出品票」が決め手 図録部長 今田篤洞

第35回記念産経国際書展の図録は、241ページと昨年に比べて16ページ増えた。掲載作品数が約80点増えたことになる。総出品点数の増加に加えて、記念賞、会友賞の増加による結果だ。そのため、全体のページ割付、レイアウトが難しかったが、国際書会の象徴とも言える各国大使館の作品も掲載できて良かったと思っている。

図録部作業の必須事項は、掲載作品と書作者の一

致、氏名の正確さであるが、中でも最大の難関ポイントは、作品の天地左右が正しく掲載されているかにある。 誤掲載防止の決め手は「出品票」であり、特に現代書部門の作品では、出品票記載の天地と雅印の位置を頼りに編集せざるを得ない。今年も十数名の方に事務局から確認をすることとなった。巻末資料、新聞原稿で数千人の氏名をチェックする作業も大変だった。部員10名の皆さんに感謝感謝である。

陳列部 メインフロアを見やすく

陳列部長 山本晴城

今年の第35回記念展では、ロビー階のメインフロアの壁を取りました。来場者の方々には広いスペースで鑑賞していただくことができ、良かったのではないかと思っております。陳列部の先生方には今年も広い会場を走り回っていただいたり、名札を付けていただいたりとご負担をおかけしました。人手が

足りず、本当は作品のレイアウトに専念したいのですが、これも問題点として何とか解決していかなければなりません。ただ陳列部の先生方も回を重ねるにつれ懇親が深まって行き、忙しい中にも年々作業はスムーズに進んで行っているように思います。幹部の先生を含め、関係者の皆様には感謝申し上げます。

東京部会 「第35回記念産経国際書展」を終えて 東京部会長 武富明子

今回の試みとして、ロビー階第1室、2室の壁を失くして広い空間とし、幹部と受賞者作品の陳列及び「『書』でつなぐ世界と日本」と題した16ヶ国の駐日大使等による作品を正面奥に展示し、国際書会らしさを演出。

オープニングの華やかなテープカット。高円宮妃殿下の会場へのお成り。最高賞受賞者のギャラリートー

ク。また揮毫会では、石井長慶先生が古代文字を解り 易く説明しながら、最後は『私+長+CHO』を合体させて先生の顔に似た篆刻作品をご披露され満員の観客を湧かせた。本展で、出品点数の増加と共に総入場者数が5千人を超えたことは嬉しい限り。実行役員の団結と会員各位のご協力の賜と深く感謝申し上げる次第です。

第 35 回記念 產経国際書展

ギャラリートーク(7月27日)

企画部 岩村恵雲

進行役は金丸鬼山副理事長が務められた。先ずギャラリートーク開始に先立ち、風岡五城理事長からご挨拶があり、引き続き高円宮賞を受賞した坂本香心理事長代行、韓国文化院長賞受賞の岡美知子先生、日中平和友好条約締結40周年記念賞の岩浅写心先生、産経国際書会会長賞の大久恵華さん、河内紅漣さん、産経国際書会理事長賞受賞の諏訪春蘭さんの順で6名の受賞者によるお話しがあった。

坂本先生からは多字数の作品の制作の過程について詩文、書体の選択などを練って作品の制作をしたこと、岡先生からは自分流で読める万葉仮名作品を試みたこと、岩浅先生からはご自身がそうありたいという言葉を「書と印」のコラボで制作したことなどのお話しがあった。各受賞の先生方の作品制作の苦労話があり、制作する産みの苦労は必ず次の作品に生きるとのエピソードなどが披露された。

1時間余りの短い時間でしたが会場から多くの質問もあり、熱気の溢れるギャラリートークとなった。



高円宮賞の坂本香心先生



韓国文化院長賞の岡美知子先生



日中平和友好条約締結40周年記念賞の岩浅写心先生



会長賞の大久恵華先生



会長賞の河内紅漣先生



理事長賞の諏訪春蘭先生

座談会「書道界の現在・過去・未来」(7月29日) 企画部 北野香春

- ●基調講演 笠嶋忠幸氏(出光美術館学芸課長)
- ●パネラー 桑原喬(五禾書房社長)、澤田博史(匠出版社長)、藤崎敦司(藤樹社社長)
- ●進行 福本雅保(産経国際書会長代行)

出光美術館の笠嶋忠幸学芸課長は基調講演で毎日、読売、産経といった新聞社をバックボーンと して持つ3つの書道団体の成立、特徴から現代の書道界について語り、過去については、平安時代 から明治までの書道文化を概観した。未来に向けては、書は分かり易い字を書けば没個性になり、師匠の字を真似れば亜流になる。従って、これからの書は個人が古典を基本としてしっかりと学び、既視感のない個性を生かした書を書くように若者たちに伝えなければならないと提言した。

続いて行われた座談会では、澤田社長が「國井誠海先生は『書は国際的に認められなければその文化は成り立たない。また、書の文化は作品を誰かに買って貰ってその価値がある。そのように、書は現代の息吹を伝えなければならな



基調講演をする笠嶋先生

い』と述べたのが印象的だ。産経の草創期の人たちは21世紀の書を自分たちが創造していくのだという気持ちが強かったと思う」と話した。藤崎社長は「20年前、産経展の最初の印象は、自由な表現の作品が展示されていた。書というのは作家のメッセージがなければならない。前衛であろうが全



左から福本代行、笠嶋先生、桑原社長、澤田社長、藤崎社長

ての作品にはメッセージがあって欲しい。産経には、毎日、 読売とは違う何か新しいもの、というより一般の人にも親 しみ易く取り組める様に裾野を広げて行って欲しいと思 う」と話した。さらに桑原社長は、「今回の、世界各国の大使の 作品の展示は素晴らしい企画であった」と述べた。

産経のキーワードは「国際」である。毎年開催の「特別色紙展」の今年の御題は「変」と「創」。

「これからも、変化を恐れないで新しいものを創っていけたらと思う」と福本会長代行が締めくくった。

揮毫会(7月29日)

企画部 恩田瑞貞

第35回記念展の揮毫会が講演会、座談会の後、会場をロビー階第1室に移し、200名を越す見学者を迎え行われた。

今回揮毫をお願いした先生は、今記念展で高円宮賞に輝いた國藝書道院理事長代行の坂本香心理事長代行、そして中国大使館文化部賞を受賞された日本刻書芸術会代表の石井長慶常務理事のお二人だった。

坂本先生は半切、聯落ちに行草で5枚、半切に調和体で3行の作品を、淡々と大胆かつ繊細に書かれた。羊毛の長鋒の筆で書くといろいろな面白い線が書けると教えていただいた。

続いて石井先生は、「書ではなくショーです。」と言い書き始められた。まず引く線、押して書く線、回転する線、そして字が人の動きや物の様子を表すことを力強い線で表現された。軽妙なやり取りで、見学者から驚きや笑い声があがり大いに盛り上がった。

先生方ご協力有難うございました。



人でびっしりの揮毫会(坂本香心先生)



石井先生の書道パフォーマンス

第 35 回記念 産経国際書展

華やかな祝賀会

今年の「第35回記念産経国際書展」はいつにも増して華やかなものとなりました。高円宮妃殿下の御臨席を賜る中、タレントの片岡鶴太郎さん、「『書』で結ぶ世界と日本」で揮毫いただいたローラン・ピックフランス大使をはじめ大使館のご関係者15人が出席。

片岡さんには、産経国際書展へのこれまでの貢献 を賞し、第35回産経国際書展特別功労賞が風岡五城 理事長より授与されました。

また、35周年を記念して設けた「功労賞」の表彰を 行い、祝賀会出席の赤堀翠柳さんら72人の個人受賞 者と7社中の代表者に飯塚浩彦産経新聞社社長から 賞状が手渡されました。





大勢の参加者で賑わう祝賀会会場



会話を楽しむド・ラーゴ ブラジル大使



受賞の喜びを語る片岡鶴太郎さん

or suero

高円宮賞

坂本香心 理事長代行

sionsie

苦手な「継続 |が「宝 |に



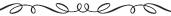
第35回記念産経国際書展では、栄誉ある「高円宮賞」を受賞させて頂き誠にありがとうございました。今年は記念展にあたり「2018日本台湾交流書道展」も開催されるなか、このような節目に身に余る賞に恵まれ心から感謝申し上げます。

25年前の10周年記念展では、漢字部門で「会長賞」を頂き、平成14年に薨去された高円宮殿下と妃殿下をテーブルでお囲みして、受賞者の皆さんと二、三の殿下からのご質問にお答えさせて頂いたこともついこの間のように思い出されます。自身の苦手な継続は、今となっては力から宝となりました。

今回の特別企画「書で結ぶ世界と日本」で揮毫された ウィリアム・ハガティ米国大使は、ご家族で書に親し み、「書道には忍耐と力の均衡、技能が必要だ」とメッセ ージされたと聞きました。受賞作の白居易「夜歌うもの を聞く」は、継続の中には、忍耐が大きく左右されてい ると思いました。大先輩の先生方の背を見ながら勉強 させて頂き、この度の受賞の喜びを審査に当たられた 先生方、ご関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後に産経国際書会の益々のご発展と会員各位の 方々のご多幸を祈念いたしまして、御礼の言葉とさせ て頂きます。 不以名居為治系心心靈

「白居易を聞歌者



内閣総理大臣賞

岩間清泉 副理事長

sionsie

夢のような受賞

35回記念 産経国際書展 贈賞式



気力で登壇し謝辞を長女が代読した

この度は身に余る大きな賞を頂戴し、大変恐縮いたしております。

私の師、佐野丹丘は第21回展で内閣総理大臣 賞を受賞いたしました。師と同じ賞を受賞でき るなんて、本当に夢のようです。

私事ではありますが、24年前に突然主人を亡くし、一時は呆然といたしましたが、書の力でなんとか今日まで生きてこられました。書の力は偉大です。

書を通じて沢山の方と出会い、様々な経験をさせていただきました。そんな周囲の皆様のご支援があったからこそ、今回の受賞に繋がったのだと感謝しております。

これからも私なりの書を追求していきたいと 思っております。

皆様本当にありがとうございました。



「ほほえみ

岩間清泉副理事長は8月27日、乳がんのためお亡くなりになりました。約4年間にわたる闘病生活中、副理事長として活躍されました。会報をご担当された後、総務部長の要職に就き、会費値上げ、会友会員の定着を目指した会友特別賞の設置、受賞の制度基準改革など困難な問題に臨み、多くの改革に取り組みました。そして、今年は、「書で結ぶ世界と日本」企画を提案、大成功を納めました。

ご冥福をお祈り申し上げます。(事務局)

中国大使館文化部賞

石井長慶 常務理事

al arole

受賞に感謝



この度、35回記念展において、中国大使館 文化部賞を頂戴し、汗顔の至りですが、感謝と 光栄の限りです。昭和8年生まれ、同年配の知 人友人も数少なくなってきた昨今、健康で同 好の皆さんと共に、作品創りを楽しむことが 出来る幸せを、しみじみと感じています。敬愛

する書の祖国、中国大使館のご褒美というのも、何かのご縁かも知れませんね。とても嬉しいことです。

顧みれば、書道への糸口を開いて下さった故内田宏洋先生。学書への対し方を教えて下さった故青山杉雨先生。刻書の楽しさを導いて下さった故小林石寿先生。感謝の思い出を新たにしております。また、産経国際書会とのご縁を結んで下さった、伊藤欣石先生に改めて感謝申し上げます。

立体と色彩で表現する刻書が、外国の人々にも理解され、書文化が世界 に広まることを夢見ています。ありがとうございました。



日是生涯

mouero

韓国文化院長賞

岡美知子 参与

韓国文化院長賞をいただいて



産経新聞85周年、産経国際書会35周年を迎えた意義ある年に「韓国文化院長賞」というすばらしい賞を頂きました。大変うれしく、光栄に存じております。これも偏に、書会の先生方、会員の皆様のご後援を頂いての事、感謝、感激の思いで一杯でございます。

本格的な書への出発は現日書道会発足からで、遅いのです。仮名の勉強はしておりましたが、素材は万葉集。万葉人への想いをこめて、ずっと万葉仮名で書いておりまして、今回の様な書作となりました。

好きなのは、豪快な漢字作品ですが、力がありませんので、詩文書作品をもっと極めたいと思っております。筆線の響き、墨色の幽玄、わからないことばかり。見てくださる方に何か感じて頂ける様な、味のある書が出来たらと努力するだけです。どうぞ今後ともよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。



「柿本人麻呂 万葉集より」

第35回記念特別賞

小林静洲 常任顧問

alono le

大勢の方々のご厚情に感謝



この度は、特別賞、有難うございました。 故小林静洲は平成30年5月13日、永眠いたしました。10代の頃より、漢文、短歌、俳句に興味を持ち20歳の時に書を始めたようです。数々の雑記帳に記してありました。

5年程前より体調を崩し、入退院を繰り

返し、ベッドの上で何を書いているかと思うと昔、暗唱した漢文を雑記帳にいっぱい書いて退院後、調べたら間違ってなかったと、若い時の記憶力が歳を経てもある事を思い知らされました。病院の3階の窓より、生まれ故郷を眼前に、

「吾が生まれし宝登南麓の集落は真向いに見ゆ病院の窓」 「これまでに癌のことなど思わざりき八十二歳の今日抗がん剤を滴つ」。 これが最後の句となりどんな気持ちで書いたかと思うと計り知れないものがあります。

大勢の方々のご厚情で、ここまでこられた事、深く感謝申し上げます。 (小林樵月、夫・静洲に代わり記す)



濯髪

mondero

日中平和友好条約締結40周年記念賞

岩浅写心 副理事長

sionoie

賞に恥じぬよう精進



今年の運勢を暦でみると五黄の土星は黒丸で何年に一度かの悪運の年である。盛運の年であってもトンと賞に縁の無い日々であったし、またそれが当然のような作品しか発表してこなかったので何の不満もない生活であった。

そんな私に突然受賞の打診があった、「日中平和友好条約締結40周年記念賞」という大きな賞を下さるという。募集要項にも無い賞で書会の35周年と平和友好条約締結40周年が重なったので、中国大使館のご厚意で急に設けられたのだそうである。

今回の作品「印と書のコラボ・虚心坦懐」は気持ちばかり先走り坦懐とは裏腹に、50枚以上の紙の無駄使いをしてしまい不本意な作であったので、他の方にと遠慮申し上げたのですが、重ねてのお薦めにより有難くお受けいたしました。

今後も賞に恥じぬよう精進をし、私独自の作品制作を続けられるよう努力いたします。中国大使館、そして書会の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。



虚心

第35回記念産経国際書展

受賞者 喜びの声

(敬称略)

第35回記念特別賞(審查会員) 法月秀峰



思ってもみなかった受賞、しかも記念賞となり大変光栄に思っています。 選んだ料紙の青色が効を奏し良い結果 となりました。村越龍川会長はじめ書

友の皆様のおかげと感謝しています。今回の結果 に慢心せず努力していきたいと思います。

産経国際書会会長賞 河内紅漣



身に余る産経国際書会会長賞をいただき、心より深く感謝、御礼申し上げます。拙い私の作品に目を止め、票を投じてくださった先生方に恥じぬよう、師

匠村越龍川先生からの"更に精進あるのみ"の言葉 を胸に頑張ります。

産経国際書会理事長賞 諏訪春蘭



第35回記念の時に大きな賞を頂き大変嬉しく御礼を申し上げます。小川瓦木、石川天瓦両先生に古典臨書は「唐」以前を徹し、創作は自由にとご指導を

いただいて参りました。感謝の念でいっぱいでご ざいます。一層研鑽して参る所存でございます。

第35回記念賞(無鑑查) 鎌田嘉壽



思いがけない受賞に驚きと共に身の 引き締まる思いで一杯です。ご指導下 さった山口青秋先生のお陰と感謝致し ております。この賞を大きな励みとし、

「継続は力なり」を信じて、書を楽しみながら精進 して参りたいと存じます。

外務大臣賞 渡辺吾風



まずはここまで辛抱強く見守り、ご 指導くださった煌心書道会の先生方に 多大なる御礼を申し上げます。いまだ 実力不足ゆえ、臨書の大切さを痛感し

ておりますが、「書を楽しむこと」もまた大切にし ていきたいと改めて感じております。

伊達政宗賞 五戸光岳



東北人として目標としていた賞ではありますが、まだまだ先!と思っておりましたところ、この度の受賞、驚きと嬉しさでいっぱいです。また、居合道の

弟子である宇宙飛行士の「無事」を祈った作品、二 重の喜びです。

産経国際書会会長賞 大久恵華



この度、このような素晴らしい賞を いただきまして望外の喜びです。これ も書成会田村政晴会長はじめ、諸先生 方の長年にわたるご指導のお陰と感謝

申し上げます。今後も精進し、さらなる作品の向上に励んで参ります。

産経国際書会会長賞 山本美峰



この度は思いがけない賞を頂き身に 余る光栄に存じます。これも偏にご指 導賜っております伊藤春魁先生、諸先 生方のお陰と心より感謝申し上げま

す。今後は「自然体」で日々精進して参ります。あり がとうございました。

国際大賞 銅山桂銅



歴史ある「国際大賞」のご連絡は、驚きと同時に「継続は力なり!」を確信した瞬間でした。今回の作品は、昨年急逝された寺尾柱翠先生に想いをこめて何

度も何度も筆を走らせました。本当にありがとう ございました。

文部科学大臣賞 野﨑子慶



幼少より育んできた書ですが「継続が力」となりました。今回の百人一首かな作品は、旋律のように軽やかに書く事が出来ました。98歳になる老齢の母が大変喜んでくれ親孝行にもなりまし

た。正川子葉先生や社中の皆様のお陰です。これを励みに今後も健康で頑張っていきたいと思います。

産経大賞 竹内花子



立派な賞を頂き、誠にありがとうご ざいます。嬉しく思うのと同時に、夢な のではないかと驚いております。書研 社の先生方、そして世末田江山先生、社

中の皆様と恵まれた環境に感謝し、この賞に恥じぬよう、より一層精進して参りたいと思います。

第 回記念 産経国際書展受賞者(敬称略)

高 宮 賞 凹

漢字部門 坂 本 香 小 (神奈川県)

内閣総理大臣賞

現代書部門 岩 間 澅 泉 (千葉県)

中国大使館 文化部賞

長慶(埼玉県) 篆刻刻字部門 石井

韓国文化 院長賞

圌 現代書部門 美知子(神奈川県)

第35回記念 特別賞

現代書部門 小林 静洲(埼玉県) 日中平和友好条約 締結40周年記念賞

岩浅 現代書部門 写心(長野県)

第35回 記念賞

かな部門 法月 秀峰(静岡県)

産経国際 書会会長賞 漢字部門 河内 紅漣(静岡県) 美峰(愛知県) かな部門 山本 恵華(神奈川県) 現代書部門 大久

產経国際 書会理事長賞

諏訪 春蘭(東京都) 現代書部門

伊達政宗賞

五戸 光岳(青森県) 現代書部門

国際大賞

漢字部門 銅山 桂銅(岡山県)

第 35 回記念賞 (無鑑查)

漢字部門

鎌田 嘉壽

現代書部門 児玉 美登里 現代書部門

臨書部門

前田 沙杏 瀧澤 龍石

臨書部門 小山 쭽果 篆刻刻字部門 浅川 美彭

文部科学大臣賞

かな部門

野﨑 子慶

外務大臣賞

漢字部門

渡辺 吾風

産経大賞

現代書部門 竹内 花子

産経進大賞

漢字部門 伊東 星昂 漢字部門 塩川 千津 漢字部門 中村 紅舟 かな部門 井上 すみ子 無鑑者会員特別獎励賞

漢字部門 漢字部門 漢字部門 漢字部門 漢字部門 漢字部門 かな部門 現代書部門 現代書部門 現代書部門

奥本 恵舟 河島 彩澄 白井 幸風 須田 瑞兆 福田 世英 丸田 華芳 大久保 節子 上田 綾美 桜井 知子 佐藤 有光 現代書部門 中村 青秀 現代書部門 横尾 春風 現代書部門 渡辺 千代恵 太宰府天満宮賞

漢字部門 高垣 琴紅

太田道灌やまぶき賞

漢字部門 新井 大鳳 現代書部門 大山 香蘭 現代書部門 宮下 信秀

無鑑查会員獎励賞

漢字部門 大平 美侑 かな部門 菰田 欣穂 かな部門 西山 弘美 現代書部門 丸井 茜笙 臨書部門 古田 蘭紲

第35回記念賞(会友)

〈かな部門〉 塩澤 鈴華

会友特別賞

〈漢字部門〉 田中 曄仙 新野 彩香 西川 遷石 波多野 美麗 水元 光明 〈かな部門〉 増田 孝志

〈現代書部門〉 阿部 葉柳 太田 昭華 國貞 螢炎 佐藤 由美 虫明 智恵子 〈臨書部門〉 大橋 栄美

会友賞

〈漢字部門〉 安藤 佳舟 井沢 環麗 石川 光苑 石原 志仙 大富 昭汀 岡本 桂草 奥野 幽泉 尾末 静翠 河西 香峰 上圷 芳春 神谷 映水 亀山 凰琳 柿川 澄石 木村 幾月 栗原 清泉 河野 春径 小林 知子 坂部 翔友 坂本 勝彦 久保 秀竹 上甲 白嶺 佐野 香翌 白田 彩翠 菅 栄水 高橋 岳城 高松 谿雪 田中 秀穂 玉木 光華 丹下 頌翠 津川 翠月 中川 龍峰 中西 儷 玉木 紅雨 程中 日根野 貞水 中野 康龍 野口 寛舟 西川 玲華 西山 秀光 平島 東憲 藤田 逸峰 藤田 鳳洞 松林 麗泉 水野 鳳扇 光谷 春煌 宮尾 蒼外 宮崎 曄鳳 民部田 鳳春 宗行 麗翠 村上 紅恵 柳沢 秀隺 山崎 翠嵐 山城 昂風 山田 梅苑 渡辺 青枝 綿貫 勝一 〈かな部門〉 新井 輝志 梅田 ちか子 江川 松静 大倉 純子 北畑 円美 沢田 白洋 安田 美保 吉田 聖 米澤 千代 寺牛 都 堀切 清之助 〈現代書部門〉 青砥 光瑛 青野 竹佳 アラン ロワ 安藤 法子 石嶺 エツ子 板谷 有星 稲葉 淳子 内山 硯翠 大石 慈宝苑 大上 光舞 小野 敬子 小野 香月 柏村 明子 勝又 明子 加藤 操 金子 征司 金田 寿三枝 川田 芳樹 キム ヨシカネ 国井 丹瑩 グリーン 薫 小林 丁鵬 齋藤 雅貴 阪田 佳凜 佐藤 小菊 佐藤 茜彩 澤口 貴美江 杉原 寿美 澤田 蘭香 高砂 華泉 高津 佳代子 達家 祥琴 中川 奎翠 長野 佳子 中村 智子 西島 良祐 藤谷 永翆 逸見 渉仙 堀川 雲峰 松村 進龍 三澤 よし江 三井 紀子 山崎 眞聖 ロビンソン 万里 三谷 沙園 宮眞由美 山本 美須子

〈臨書部門〉 浅岡 桃苑 加藤 志瑛 櫻本 静月 西 英章 〈篆刻刻字部門〉 河野 秀喜

会友獎励賞

〈漢字部門〉 亀井 稜石 田口 瓊姮 中島 啾鳳 松本 稲華 山田 窓月

〈かな部門〉 岡坂 彩逍 高橋 静子 高山 幸子 〈現代書部門〉 寺坂 青畝

〈臨書部門〉 伊藤 雅洋 大森 香楓 西山 秀光

一般公募・特別賞

東京都知事賞

愛知県知事賞

本多 美子

〈現代書部門〉 林 帛甫 〈かな部門〉 牧野 友里

產経新聞社賞

〈漢字部門〉 國吉 扇嘉 清水 東粹 〈かな部門〉 鹿屋 真由美 〈現代書部門〉 鈴木 栖城 野坂 みい 〈臨書部門〉 古澤 葵扇

フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉 坪井 駿泉 〈現代書部門〉 大友 伸秋 〈臨書部門〉 李 若娜

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉 園田 桃香 〈かな部門〉 岩山 淑子 〈現代書部門〉 高島 由紀子

国際賞

〈漢字部門〉 高橋 秀翠

U23 奖励賞

〈漢字部門〉 和田 朱里 〈現代書部門〉 小野 由里彩 森田 三鈴

第 35 回記念 産経国際書展

第35回展を記念して功労者を表彰

今年は第35回記念展でした。35周年を記念して、産経国際書展に30回以上の出品をされてきた 会員の皆様、また、産経国際書展の発展のために各社中内で特に功績のある方々を「第35回展記 念功労者」として表彰しました。個人表彰184人、団体表彰14社中です。

7月31日の祝賀会に出席された皆様には直接その場で賞状をお渡しし、ご欠席の方には郵送にて送らせていただきました。長い間、産経国際書会とともに歩み、その発展にご協力いただきありがとうございました。今後も引き続き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。 (事務局)



飯塚社長から功労賞を手渡されました



長年の皆様の頑張りに感謝し、全員に手渡し



会場全体でお祝い

第35回記念産経国際書展 功労者(敬称略)

赤阪瑞舞 秋葉秀厓 阿久津由美 浅香秀子 飯田錦翔 生田博子 石井芳柳 赤堀翠柳 五十嵐光子 石川晴空 石黒洋子 伊藤欣石 伊東玲翠 今井翠泉 今口鷺外 今田篤洞 石川秀苑 石川天瓦 岩浅写心 岩﨑水雅 岩田蕙雨 岩田正直 岩間清泉 上野鶴陽 遠藤香葉 大川峽暮 大川詢子 大橋玉樹 岡村公裕 岡本杏華 小川香遊 小川志麗 奥村桃曄 小作晴芳 小谷翠谷 小名玉花 小名雪王 小名雪摇 角谷欣壽 加柴律子 小野澤美香 貝瀬芳雨 影山瑤琴 梶原碧川 勝田晃拓 加藤香雪 加藤深流 鴨田茜竹 川井恵風 河原畑静揚 木住野栄 木村春峰 久保杉峰 栗栖芳樹 黒田浩芳 見學素影 小嶋カズ子 小杉秀花 小杉修史 後藤溪泉 五戸光岳 小林旭華 小林旭仁 小林紫雲 小林千津 齋藤香坡 斎藤秀翠 坂井節江 酒井竹風 坂口静湖 坂本香心 佐子恵鳳 佐々木月花 佐々木瑞幽 佐武照聲 里 芳倫 佐藤志雲 佐藤祥佳 澤田香墨 清水旭暁 清水旭酔 白崎菖汀 菅井裳雲 鈴木愚山 鈴木青苑 鈴木祐洞 須藤松閑 青陽如雲 世木田江山 関根春峰 関谷正子 十亀紫風 髙野彩雲 髙橋峰月 高木規洞 髙田華光 髙橋香鶴 高山旭雲 武富明子 多田鷺景 建部恭子 田中吴峰 谷 天水 田端香峰 玉木白雲 田村恵子 田村政晴 檀原雅仙 千島玲峰 津久井桂葉 辻 和雲 土田芳水 土屋山歩 鶴田秀紅 勅使川原里雪 戸叶幽翠 戸田汀香 中塚龍華 中野和博 中村城風 中村雪鷺 夏堀竹翠 成毛煌扇 西尾秀誠 西川万里 野﨑俊峯 野原永翔 畑中華舟 羽根田和香 馬場芳苑 早坂喜伊 橋本旭石 橋本旭歩 畑田穂苑 原田圭泉 人見恵風 増尾旭脩 久田方琥 平岡雄峰 平野詩竹 降幡加津 古川露風 堀江宣久 本多道子 松﨑龍翠 増尾鳳石 町山一祥 松井玲月 松岡輝峰 松沢緑芳 真々田壽扇 三上錦水 水原白姚 三谷旭心 蓑口草川 宫尾蒼外 宮川彣子 三宅秀紅 宮﨑春華 宫崎礼子 宮平翠玲 村瀬敢山 村田白葉 室伏雅篝 本橋春景 森 紀生 森田香深 諸留大穹 柳澤禮石 山口春蘭 山下海堂 山下翠風 山田華萌 吉野富龍 向山芳川 山村鳳羽 吉田永欽 吉原芳蘭 米山石峯 ラモス逸子 渡辺敦子 渡邉 麗 渡邉正峰 渡部美恵子 渡辺龍泉

第35回記念產経国際書展 3000点出品社中(敬称略)

旭石書道会(橋本旭石) 書研社(小川艸岑) 誠心社(渡邉 麗) 東西書芸会(伊藤欣石) 米国書道研究会(生田博子) 宏道書会(山本晴城) 書成会(田村政晴) 桑文会(松本美娜) 日本書芸心龍会(村越龍川) 臨泉会(佐々木月花) 尚友会(岩間清泉) 書峰書道会(田島青谷) 竹翠会(髙頭子翠) 日本書芸美術院(樽谷龍風)

国際交流

第35回記念展での特別企画

『書』で結ぶ世界と日本:『愛』と『友』

今年の「第35回記念産経国際書展 | では、特別企画とし て、世界の国々の駐日大使の方々にご揮毫いただいた 「『書』で結ぶ世界と日本:『愛』と『友』|を企画し、開催し ました。米国、英国、ドイツ、フランスをはじめとする16 か国の大使、大使に準じる方々に、毛筆と半紙を使い、そ れぞれのお国の言葉で、「愛」「友」を意味する言葉を書いて いただきました。ご揮毫にあたっては、各国大使館に弊会 書家が伺いご指導しましたが、皆さま揃って、書という日 本固有の文化への関心が高く、手を取っての指導自体が素 晴らしい国際親善となりました。書くという行為の中に、 異なる文化のエッセンスが詰まった「文化の融合 | ともい える作品に仕上がりました。

来場者の皆様からは、「書を通じた国際交流 | で産経国際 書会に相応しい企画だとのご意見を多くいただきました。



大使の作品をご覧になる高円宮妃殿下



タスリフ インドネシア大使ご夫妻がご観覧



「『書』で結ぶ世界と日本 は、ロビー階第 1室の正面に展示

「書」で結ぶ世界と日本 出品国 *国名ABC順、敬称略

国名	揮毫者	作品	指導書家(敬称略)
アフガニスタン	バシール・モハバット大使	愛	岩村恵雲
ベルギー	ギュンター・スレーワーゲン大使	愛、友	戸田汀香、山村汀春
ブラジル	アンドレ・コヘーア・ド・ラーゴ大使	愛	金丸鬼山、鎌田悠紀子、北野香春
中国	賀怡蘭 文化担当二等書記官	愛	_
チェコ	トマーシュ・ドゥプ大使	愛	戸叶幽翠
フランス	ローラン・ピック大使	友達	金丸鬼山、北野香春
ドイツ	ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン大使	友達	浅香秀子
ギリシャ	ルカス・カラツォリス大使	友情	北野香春
インドネシア	アリフィン・タスリフ大使	愛	岩間清泉、北野香春、梶原碧川
パナマ	リッテル・ディアス大使	愛	髙木撫松、五月女久枝
ポーランド	マリア・ジュラフスカ広報文化センター所長	爱 爱 爱	人見恵風、加藤香雪
カタール	ユセフ・ビラール大使	愛	竹澤玉鈴
	ジャミラ・アルスウェイディ大使夫人	友	
韓国	金現煥 韓国文化院院長	友情	金丸鬼山、鎌田悠紀子
ロシア	ドミトリー・ビリチェフスキー公使参事官	友	鎌田悠紀子
英国	ポール・マデン大使	友	浅香秀子、宮川彣子
米国	ウィリアム・ハガティ大使	友	- 岩間清泉、人見恵風、梶原碧川
	ハガティ一家	友ほか	

日本の「書」を永年にわたり、海外で紹介する米国書道研究会

米国書道研究会6人展「Six Dancing Brashes」 牛田博子

会期●8月8日(水)~9月3日(月) 場所●東京アメリカンクラブ フレデリックハリスギャラリー

8月7日にギャラリー主催のオープニングレセプションに 産経国際書会の先生方30名をご招待し盛会であった。在米60 年、海外に日本伝統文化の紹介、普及と日系社会の向上、発 展に携わり、次世代へ繋ぐべくこの書展を企画し、アメリカ ンクラブの協力を得て実現した。外国にあって「日本の書」の 美しさ、叙情性豊かな作品群として各国の来観者に好評で、 会期中の館内のイベントにも紹介された。

出品者: 生田博子、奥達子、加柴律子、ラモス逸子、

平岡智子、清水充



第 35

回記念 産経国際書展"新春展"募集要項

開催要項(概要)

【主 催】 産経新聞社 産経国際書会

【会 期】 平成31年1月23日(水)~2月4日(月) 1月29日(火)は休館日

【会 場】 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2 TEL03-6812-9900 FAX03-3405-2531

【入場料】500円 (身体障害者手帳をお持ちの方と付添いの方2名、65歳以上、および学生は無料)

出品要項(概要)○申込締切:平成30年10月31日(水) ○搬入締切:平成30年11月16日(金)

《新春展 I 代表展》

【出品資格】産経国際書会の下記会員

最高顧問、副会長、名誉顧問、常任顧問、 顧問、客員顧問、参与、理事長、理事長 代行、副理事長、常務理事、専管理事、 理事、監事、評議員

【寸 法】タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。 全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。 篆刻、刻字、巻子・折帖作品は上記サイ ズ外。

【出品料】5万円

【特 典】作品を掲載した産経国際書会代表展の図録を1冊進呈(希望者には5冊まで)

【搬 入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料 を添えて指定表具店へ。

《新春展I》

【出品資格】審查会員、無鑑查会員

【寸 法】タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。 全紙以上。篆刻、刻字、巻子・折帖作品 は上記サイズ外。

【出品料】3万円

【特 典】作品を掲載した産経新聞「産経国際書展 新春展特別版」発行し、希望者には5部 まで進呈

【搬 入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料 を添えて指定表具店へ。

《新春展Ⅱ》

【出品資格】満18歳以上(産経国際書会会友含む)

【寸 法】半切タテヨコ (135cm×35cm)、全紙 2 分の 1 (79cm×68cm)

> ※搬入は未表装で出品票に必要事項を ご記入の上、藤和額装(下記作品送付 先)まで。団体の場合は一括出品をお 願い致します。

※出品作品はすべて展示します、但し、 規定寸法と異なる場合には展示できな い場合はありますのでご注意くださ

【出品料】2万円

【審 查】12月7日(金)

【審 查 員】坂本香心、髙木撫松、髙橋照弘、武富 明子、松井玲月、松﨑龍翠、村田白葉

【 賞 】会友の部:会友奨励賞(賞状、副賞) 公募の部:産経新聞社賞(賞状、副賞) 奨励賞(賞状、副賞)

【特 典】①作品 (半切タテのみ) を軸装にして 返却します。(表装料はいりません)

②産経新聞社賞受賞者が平成31年7月 に行われる第36回産経国際書展に公 募で出品する場合は出品料を無料と します。

【贈賞式】平成31年1月31日(木)午後4時~

資料請求先 〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会 新春展Ⅱ係 問い合わせは TEL03-3275-8902 FAX03-3275-8974

新春展 I の作品送付先 藤和額装(株) 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台 7 -51-12 TEL045-833-5273 FAX045-833-5275

祝賀会 ◎平成31年 1 月31日 (木) 午後 4 時~ ◎会場 明治記念館

◎会費 1万円

2018産経ジュニア書道コンクール

産経ジュニア展開催には産経国際書会会員の皆様、全国小中高、書道関係者からの力強いご協力ご支援をいただきましたこと御礼申し上げます。本年も昨年に引き続き出品点数は増加しており、目標一万点への歩みを着実に進めています。産経ジュニア展の東京都美術館開催と本展との同時開催は2回目を終えました。慣れぬ当初の戸惑いは各部員の熱心な活動により、現在での運営は概ね円滑にできるようになっています。上野公園は国立の博物館、美術館、芸大など芸術のかおりが漂う場所として全国に名を広く知られています。その一隅にある東京都美術館での開催は出品点数が増えている要因の



教育部 髙橋照弘

ひとつといえます。そして、ジュニア展最大の強さは出品者全ての作品を展示することにあるといえます。これは他展にはない最も大きな魅力となって出品者の意欲を高めていると考えられます。 贈賞式、席書には受賞者、保護者の参加が予想以上あり講堂に着席できない人が多くいたため、昨年から午前午後と二部に分けて実施したことは式、席書が円滑に支障なく行うことができるようになりました。小中の部の贈賞式の時間の短縮。高校生の贈賞式の参加者が少なく空席が目立っていたことは今後の課題として教育部会で鋭意検討をしてゆくことにしたいと考えています。終りに一万点を目指すことに来年もお力添えをお願いいたします。

審查委員…【審查長】髙橋照弘、【実行委員長】 真田朱燕、【審查員】生田佳葉、泉芳秋、市原 蘇水、大谷芳雨、大段栄泉、岡本杏華、恩田 峰道、影山瑤琴、勝田晃拓、鎌形美遊、鴨田 茜竹、五戸光岳、小林紫雲、佐々木天道、里 芳倫、鈴木秀雲、辻本卓峰、長岡輝美、永田 昌子、中村雪鷺、長谷川明扇、星野葉柳、前 田恵泉、蓑口草川、三宅秀紅、宮平翠玲、渡 辺美代子



芳名帳に筆で名前を書いて、さあ入場



私の作品はどこかな



これ、ほんとに高校生の作品!?



栄えある席書会

◎特別賞(中学生以下)

 文部科学大臣賞
 村上望華(熊本・合志市立西合志南中学校)

 ジュニア大賞
 佐々木胡春(青森・黒石市立黒石小学校)

 埼玉県知事賞
 石黒佑佳(埼玉・入間市立武蔵中学校)

 ** 本業界の事業
 佐藤葵(千葉・市原市立八蔵・ナス川・台灣)

神奈川県知事賞 佐々木美梨 (神奈川・川崎市立玉川中学校) **産経国際書会理事長賞** 小野心丸知 (愛知・名古屋市立味鋺小学校) **産経新聞社賞** 佐藤美優 (福島・南相馬市立原町第一中学校)

産経新聞社賞 渡部彩乃(香川・高松市立新番丁小学校) フジテレビジョン賞 藤本梓(静岡・浜松市立八幡中学校)

ニッポン放送賞 永井華(栃木・那須塩原市立西那須野中学校)

国際友好賞 邱霱(台湾)

東京都知事賞 伊藤彩花 (東京·江戸川区立小岩第五中学校)

産経国際書会理事長賞 秋山晴香(埼玉・鳩山町立鳩山小学校) **産経新聞社賞** 金子智美(大分・日出町立日出中学校)

產経新聞社賞 澤田真拓 (青森·弘前大学教育学部附属中学校)

フジテレビジョン賞 本田京楓 (愛知・豊田市立浄水中学校) ニッポン放送賞 中村幸世 (静岡・浜松市立初生小学校)



文部科学大臣賞の村上望華さん



中学生以下の部・優秀作品

◎ジュニア賞(中学生以下)

A部門

荒木夢佳、石黒世菜、鵜澤朱里、越前はな乃、大坪世怜、大野沙和、岡村隼孝、岡本楓子、小原野々華、加藤琴、川合つばさ、川村七音、久保心、小久保志帆、小峰未来、斎藤礼華、宍戸未怜、曽品融、相馬咲来、髙津優永、高梨百恵、中島理沙、中村咲季、永芳夏乃、名倉奈々、野月莉花、袴田偲愛、橋元千夏、橋本若菜、浜島佐和子、原山奈々花、平山碧海、藤沢功香、堀栞汰、南沢夏実、村田千依、和田健太郎、渡辺りあら

B部門

阿瀬美沙希、飯塚康丞、飯塚咲幸、井上実優、金子さち葉、河田和奏、木村奈心美、近藤咲希、櫻井太祐、佐野千陽、澤口実希、島﨑美優、髙野桜子、竹内理紗、舘下亜友弓、外山光愛、中川ひな汎、中野伽奈子、根本理桜、原沙季、堀田莉子、松下佑香、松原香穂、水島和奏

| ◉いきいき賞(中学生以下)

A部門

阿部陽菜、植森花凜、大堀亜良太、岡みのり、奥井凛、尾瀬友昭、川上未希子、河口璃陽菜、河端莉奈、川邉結子、 桒原航助、河野真依、古森陽向、齋藤美柚、髙橋美慧、張瑞翎、渡守武美波、中村百花、二宮明日香、長谷川奈央、 半田朱璃、平川みずほ、藤田夏帆、南美慧、宮坂心花、諸星香帆、雷凛花、Luna Miyoshi

B部門

相上沙奈、一木瑛哉、今成のぞみ、榎本笛、尾崎桃花、近藤正登、笹川未羽、佐藤百夏、新宮誠人、杉尾智香、鈴木恵美、土屋はな、角田千夏、中川芹菜、沼田清順、福原未美、星野愛実、ボンダルゼン芽生、松室詩、森山怜美、山下菜美

◎特別賞(高校生)

 産経新聞社賞
 内川佳音 (長野・長野県飯山高等学校)

 産経新聞社賞
 金原由依 (静岡・浜松学芸高等学校)

 産経新聞社賞
 奈良乃恵瑠 (青森・柴田女子高等学校)

 産経新聞社賞
 北條菜美 (岩手・岩手県立盛岡第三高等学校)

産経新聞社賞 山田花楓 (愛知・名古屋市立桜台高等学校) 産経国際書会理事長賞 木村佳鈴 (東京・東京女学館高等学校) 産経国際書会理事長賞 川端柚 (新潟・新潟県立新潟南高等学校)



高校生優秀作品

◎高校生奨励賞

A部門

上山美冴、大吉彩音、大日方伶名、河村光太郎、北野奈緒、佐藤真優、塩大毅、田邊涼、中館真萌、服部奈々子、 松村咲

B部門

青山琴音、井口英、池尻祐梨華、市原好望、稲垣颯吾、上村佳那、大吉彩音、小林彩奈、酒井櫻、坂井美樹、志田 日葉里、髙谷知花、爲實薫、中川澄玲、永野ひさみ、中山真緒、橋爪恵美、秦野真緒、春名真優、東拓真、藤井碧、藤岡夏翠、萬徳真乙、南円香、森菜摘、薬師梓伎、渡邊理華子

書展トピックス

第45回鍾雲書道展覧会

大澤芳洲

会期●平成30年5月19日(土)~5月20日(日) 会場●寄居町立総合体育館・アタゴ記念館 鍾雲書道展も本年第45回の記念展を迎え、出品数は昨年を上回る600点 余りとなり、展示作品は年々多彩でレベルの向上がみられ、役員の複数小作品等は多くのご来場者に足を止めてみていただくことが出来ました。

この記念展を機に、今後とも会員一同、生涯学習を基本理念として地域文化の高揚に向け、書の道を楽しく精進していきたいと思います。





音羽会書art展X

諸留大穹

会期●7月21日(土)~7月23日(月) 会場●文京ギャラリーシビック

節目の10年展を迎えました。当初より元気な作が多い会でしたが、それは今も変わりません。気を感じて会場に入って来て下さった方が何人かいました。20周年記念にあたり、今回は特に展示に力を注いだところ、新たな発見があり、会場は一段と賑わいをみせました。猛暑の中をご来場下さいました皆様には厚く御礼申し上げます。

日露友好書画四人展

鎌田悠紀子

会期●平成30年7月6日(金)~7月20日(金) 会場●ウラジオストック経済大学博物館 今年は、ロシアにおける日本年の年、それを記念して開催。出品者は、ドミトリールィジョーフ(カリグラフィー)、オリガイグナテンコ(絵画)、松井玲月、鎌田悠紀子(ともに書)の4人。6日の式典には日本総領事館の高柳領事他のあいさつの後、席上揮毫をしました。盛会でした。私の弟子ジーマ氏に感謝、感謝です。また、日本との輸出入の仕事の方や、ビジネス関係の日本センター長との出会いが何かのお役に立てればと思います。



ブラジル・日本移民110周年記念 手島泰六書展

手島泰六



会期●7月18日(水)~7月22日(日) 会場●ブラジル サンパウロ 「ジャパン・ハウス」 ブラジル日本移民110周年記念行事として、外務省が始動させた政府海外広報新拠点であるサンパウロ市の「ジャパン・ハウス」にて、手島泰六書展が開催されました。17日の開会式には、アフォンソ元労働・雇用大臣はじめ多数の来賓が来場し、28点の作品を展示した展覧会は、5日間で13,363名の来場者となりました。日伯の文化交流を通して、今後とも両国の友好がより一層深まることを祈念しております。

香風書道会社中展

田所香風

会期●6月26日(火)~7月1日(日) 場所●大丸藤井セントラル・スカイホール(札幌)

北の都札幌の一番美しい季節に社中展を開催いたしました。今年は雨と肌寒い天気が続き、来場者数が大変気になりました。会場は小字かな、中字を中心とし、折帖や巻子、掛軸を45点ほど展示、特に美しい料紙を使っての細字表現は大変好評でした。始まる前の心配をよそに盛会の内に終了いたしました。



各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈平成30年9月~12月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

9月

第35回日本綜合書作院展

- ①9月4日(火)~9月9日(日)
- ②大阪市立美術館
- ③篠原 秀朋

第33回全国臨書摸刻展

- ①9月7日(金)~9月9日(日)
- ②埼玉会館
- ③岩浅 写心

書業50年記念 第8回野﨑俊江かな

- ①9月11日(火)~9月16日(日)
- ②銀座鳩居堂4F画廊
- ③野﨑 俊江

groupF2018展vol.3

- ①9月12日(水)~9月17日(月)
- ②ギャラリー風雅
- ③井上 空咲

2018年誠心社現代書小作品展

- ①9月13日(木)~9月18日(火)
- ②上野の森美術館ギャラリー
- ③渡邉 麗

第8回明扇書藝會発表会 Part1

- ①9月15日(土)~9月17日(月)
- ②長野市芸術館 アクトスペース
- ③長谷川 明扇

第88回公募斯華会書道展

- ①9月21日(金)~9月23日(日)
- ②東京銀座画廊 7階F室
- ③小野 之右

10月

第31回研友社展

- ①10月2日(火)~10月7日(日)
- ②銀座かねまつホール
- ③田中 鳳柳

第46回土筆会書道展

- ①10月2日(火)~10月7日(日)
- ②ふくやま美術館シティホール ③上村 陽香

第34回瑤樹会書展

- ①10月4日(木)~10月7日(日)
- ②フォーシーズンズ志木 ふれあいプラザ
- ③ 岡村 公裕

髙橋照弘書展

- ①10月5日(金)~10月10日(水)
- ②有楽町朝日ギャラリー
- ③髙橋 照弘

第68回洸風会書道展

- ①10月6日(十)~10月8日(月·祝)
- ②熊谷市中央公民館大ホール
- ③岩下 鳳堂

第8回明扇書藝會発表会 Part2

①10月6日(十)~10月8日(月) ②ホクト文化ホールギャラリー ③長谷川 明扇

第24回龍峡書道会役員展

- ①10月9日(火)~10月14日(日)
- ②東京鳩居堂
- ③林 龍成

第4回方號書院書画展

- ①10月11日(木)~10月16日(火)
- ②茨木市立ギャラリー
- ③久田 方琥

第4回「美の会」書展

- ①10月11日(木)~10月15日(月)
- ②マリーン5清水屋5階 (酒田) ③渡部 美恵子

世界平和交流書画作品展

- ①10月15日(月)~10月19日(金) ②韓国・慶州 徐羅伐文化会館
- ③鎌田 悠紀子

2018菽水清秀書展

- ①10月16日(火)~10月21日(日)
- ②東京銀座画廊・美術館 8階
- ③今田 篤洞

第38回雨心会書展

- ①10月17日(水)~10月21日(日) ②飯能市市民活動センター
- 7Fギャラリー ③貝瀬 芳雨

第43回煌心同人書展

- ①10月18日(木)~10月21日(日)
- ②銀座かねまつホール 5F
- ③松﨑 龍翠

第50回一煌会書展

- ①10月18日(木)~10月20日(土)
- ②銀座洋協ホール
- ③石川 天瓦

第64回あしで會選抜書作展

- ①10月19日(金)~10月21日(日) ②尼崎市総合文化センター
- 美術ホール5F
- ③今口 鷺外

第28回遊心書道会展

- ①10月26日(金)~10月28日(日) ②広島県民文化センター
- 地下展示室 ③大庭 清峰

第47回千墨書道展

- ①10月31日(水)~11月5日(月)
- ②品川区民ギャラリー
- ③近藤 豊泉

11月

書・墨・アートvol.9 渡邉麗展

- ①11月6日(火)~12月2日(日)
- ②杉並芸術会館・座・高円寺
- ③渡邉 麗

20周年記念輪の会書展

- ①11月8日(木)~11月11日(日))
- ②大阪くらしの今昔館 企画展示室
- ③小野 亭良

第30回記念書心会書展

- ①11月9日(金)~11月11日(日)
- ②所沢市民文化センター(ミューズ) 2階 展示室 ③加藤 深流

第36回硯田社書展

- ①11月9日(金)~11月14日(水)
- ②高新画廊(高知)
- ③橘 黄華

第31回日書美一般学生公募展

- ①11月10日(土)~11月11日(日)
- ②岸和田市立文化会館
- ③樽谷 龍風

第24回秋桜会書展

- ①11月13日(火)~11月18日(日)
- ②銀座 大黒屋ギャラリー
- ③鎌田 悠紀子

第26回柏葉書展

- ①11月14日(水)~11月17日(土)
- ②柏市民ギャラリー
- DavOneタワー3階(パレット柏)
- ③髙頭 子翠

第35回記念CMO展・近畿学生席書 **会表彰式**

- ①11月17日(土)~11月18日(日)
- ②藤井寺市民会館・パープルホール
- ③正川 子葉

第15回照葉会書展

- ①11月21日(水)~11月25日(日)
- ②川越市立美術館 市民ギャラリー
- ③竹澤 玉鈴

第39回東西書展

- ①11月21日 $(水) \sim 11月25日 (日)$
- ②日本橋 好文画廊
- ③伊藤 欣石

遠藤乾翠の個展 乾翠のこんにった 1位展

- ①11月27日(火)~12月2日(日)
- ②銀座 鳩居堂画廊 3F
- ③遠藤 乾翠

12月

心芸墨美作家協会2018選抜展 併催 役員小品展 岩浅写心個展

- ①12月4日(月)~12月9日(日)
- ②セントラルミュージアム銀座 ③岩浅 写心

追悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会でのご活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、 心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

常任顧問 小林 静洲 (平成30年5月) 理 事 奥 達子 (平成30年8月)

副理事長 岩間 清泉(平成30年8月) 無鑑查 井草 景水(平成30年5月)

編集後記

例年にない猛暑が日本列島を直撃しました。西日本の豪雨・暴風雨で被害を受けた方々の悲嘆にくれる映像を見るたびに胸が痛み、一日も早い復興を願わずにはおられません。 そんな中での第35回記念展が盛大に幕開けいたしました。

- 1. 通常の受賞以外に記念賞、功労賞が設けられ、個人・社中の貢献をたたえ表彰されました。
- 2.「書でつなぐ世界と日本」世界各国の駐日大使、大使に準ずる方々に、それぞれその国の言葉で「愛」、「友」を意味する言葉を毛筆で書いていただき、その参加国16か国19作品という国際にふさわしい行事となりました。

第35回展記念展に受賞された方々、まことにおめでとうございます。

ますますの御健筆をもって指導、育成にご活躍されることを願っております。

授賞式・祝賀会では高円宮久子妃殿下の御臨席を賜り、華やかな中にも尊厳に満ち溢れた会場は例年にない大勢の方々が参加されて大盛況でした。

ジュニア書道コンクールも年を追うごとに盛況を極め、元気溢れる作品群は今後のジュニア書道に明るい希望をもたらし、新しい風となることでしょう。

また、いよいよ台湾展の準備も実行委員の方々のご尽力で着々と進められ、大いに楽 しみな展覧会になることと思います。

記念展はこれから地方に舞台を移します。地方の方々にとって素晴らしい開催となる ことと心より盛況をお祈り申し上げます。

これからも、会員皆様の熱意で書会を盛り上げていきたいと思います。 (髙頭子翠)

(会報編集委員/髙頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邉麻衣子) 表紙:題字揮毫は風岡五城理事長

第35回記念展の会期中、会場受付で西日本豪雨災害の救援金を募金したところ、51,428円が集まりました。皆様のご協力に 感謝申し上げます。8月7日に社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団を通じて、被災地に寄付致しましたことをご報告申し上 げます。

また、9月に発生した北海道地震の被害を受けた皆様を御見舞するとともに一刻も早い復興を願っています。(事務局)

編集·発行 平成30年9月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

產経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

http://sankei-shokai.jp/

https://www.facebook.com/sankeishokai

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等 の変更があった場合には事務局 までご連絡くださいますよう、また、 各会書展のお知らせは早めにお 願い致します。